

認定特定非営利活動法人
市民活動センター神戸

2013 年度
年次報告書

(2013 年 7 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

2014 年 6 月

KEC; KOBE EMPOWERMENT CENTER

2013 年度事業報告書

I. この1年を振り返って	2
II. 事業	
1. NPO 支援事業	4
①認定 NPO 法人相談事業	
②ファンドレイズ支援事業（新規）	
③学び支援（講師派遣）事業	
④「伝えるコツ」セミナー事業	
⑤神戸元町 NPO ポート事業	
⑥その他の NPO 支援事業	
2. NPO のための資源仲介事業	7
①ひょうごコミュニティ財団支援事業	
②共感寄付事業	
③住友ゴム CSR 基金、ボランティア情報提供事業	
④サンケイリビング紙での NPO 等の情報発信	
⑤SAVE JAPAN 事業	
⑥その他の資源仲介事業	
3. 調査研究、政策提言事業	11
①NPO セクターの基盤整備にかかわるネットワーク事業への参加	
②機関誌「みみずく」発行事業	
③役員就任・審議会・研究会・ネットワーク等	
4. 東日本被災地支援事業	13
①避難者支援団体のネットワークづくり	
②福島＝兵庫ブリッジプロジェクト	
③「選べる！福島応援寄付」事業	
III. 組織	
1. 会議	14
2. 会員	15
3. 役員	15
4. 事務局	15

2013 年度決算報告書

1. 活動計算書	18
2. 貸借対照表	20
3. 第14期財務諸表に対する注記	21
4. 財産目録	23
5. 監査報告	24

2013 年度事業報告書

I. この1年を振り返って

前年度に続いてこの一年も、「ひょうごコミュニティ財団」の立ち上げに力を注いだ一年でした。直前の6月に一般財団法人として177名の方々のご参画を得て設立し、幸い、すぐ翌月に公益財団法人ひょうごコミュニティ財団となることができました。ファンドレイズはまだまだこれからで、県内各地にネットワークを拡げるとともに法人としての基盤整備に注力した初年度でしたが、KEC は人員、ネットワークその他の面でその立ち上げに尽力しました。

KEC が2012年度から実施してきた「共感寄付」プログラムは、この3月をもって第2期までが終わり、12団体のNPOとともに約446万円のご寄付を集めることができました（新年度の2014年5月に報告会を開催）。今後はコミュニティ財団に事業を譲渡し、新年度からはコミュニティ財団が新・第1期をスタートさせることになっていますが、その前身期を2年半にわたって準備し実施してきたことは、それ自体が一つの大切な成果・資産にもなっています。

2011年の発災直後から当会が関わってきた福島については、現地のNPOへの支援、福島と兵庫をつなぐ「ブリッジプロジェクト」、兵庫に避難して来られた方を支援するネットワーク「避難サポートひょうご」などを行ってきましたが、年度末の3月から、共感寄付のいわば福島版として「選べる！福島応援寄付」事業を立ち上げています。まだまだ困難な状況の続く福島で頑張っているNPOへの支援を全国の方々に呼びかけて進めようというもので、共感寄付と同様のスキームを使って新年度から寄付募集を始めます。

NPO支援の関係では、引き続き認定NPO法人取得の支援や、ファンドレイズの支援を実施してきましたが、年度末に来て、「みなし寄附金」など認定NPO法人への税制優遇が縮小される可能性が出てきました。多くの市民の努力で作ってきたこの制度は、2001年以来13年経つとはいえ、社会的にはまだまだ認知度も低く、これから育てていく余地が大いにあり、制度の縮小は食い止める必要があると考えています。

この一年は、KEC自身の運営をしつつ、コミュニティ財団の運営にも人員・エネルギーを投入し、実質的に2つの法人の事務局を務めるのに近い状態でした。他方、長年事務局を務めてきた「ひょうご市民活動協議会」（HYOGON）は前年度末に事務局を離れ、「有限会社みみずく舎」も清算手続を進めるなど、事業の整理統合も進めてきました。それらの選択と集中の効果もあって、財政的には大きな黒字を出すことができましたが、これも、会員を始めとする多くの支援者の皆さま、連携団体の皆さまのご支援の賜物です。改めて日頃のご支援に感謝申し上げます。

(黒字については、福島関連の寄付収入からの支出(助成金など)が新年度になるなど、いくつかの特殊要因と幸運に恵まれた点もありますので、引き続き財政も含むマネジメントの強化は課題と考えています)

※2013年9月の定時総会において、6月決算から3月決算に事業年度の変更をしたため、この2013年度は、9ヶ月間(2013年7月～2014年3月)という短い事業年度でした。

II. 事業

1. NPO 支援事業

前年度から継続している認定 NPO 法人の取得サポートや、恒例となっている「伝えるコツ」などクオリティと満足度の高いセミナーを実施しました。また新たに、「ファンドレイジング」をきっかけに組織の運営、改善を進める「ファンドレイズ戦略を切り口とした NPO 組織改善・自立支援プロジェクト」を実施しました。

認定 NPO 法人の取得支援については、昨年度から継続して神戸市事業を受託、神戸市を中心に団体の後押しができましたが、認定申請数はあまり伸びておらず、さらなる普及とサポートが必要です。

ネットワーク活動では、1メンバー（アドバイザー）としての参加ではありますが、「ひょうごん福祉ネット」が福祉系 NPO のネットワーク力を発揮して、介護保険制度の大改正（「要支援」部分の地方への移行）をにらみ、的確で充実した政策提言を出しました。

①認定 NPO 法人相談事業

神戸市委託事業として 2 年目を迎え、市内の法人を中心に認定 NPO 法人制度についての情報提供と取得申請のサポートを実施した。やはり法人の実務面（経理、労務など）で課題を抱えている団体が多く、難解な制度の解説という知識面もさることながら、NPO 自身の実務面のサポートの必要性を強く感じた。この点は、個別のサポート（出張相談）の実施や、次年度の支援メニュー改善につなげた。

また、所轄庁担当者と KEC メンバーとで、実際の事例をもとに認定条件への適否を模擬判定する「事例編」は、クイズ形式の進め方もあって人気を博した。

<相談実績> 2013 年 7 月～2014 年 3 月

相談件数（団体数） 延べ 35 回（25 団体）

認定・仮認定の申請件数 1 団体

出張相談【新】 6 団体（総会・理事会での説明、事務局で日々業務の見直し支援等）

説明会（基礎編） 6 回開催、40 人参加

（事例編）【新】 1 回開催、12 人参加

<実施体制>

相談員： 実吉 威、大島一晃、藤本高英（～2013 年 7 月）

コーディネーター： 大島一晃

記録： 福井昌子、星野修平（ボランティア）

②ファンドレイズ支援事業（「ファンドレイズ戦略を切り口とした NPO 組織改善・自立支援プロジェクト」）

新規

寄付や賛助会員といった「支援性財源」を必要とする団体に対し、ファンドレイズ戦略を切り口に、団体の組織運営方法の改善に向けて個別支援を実施した。定期的に各団体の事務所を訪問して「伴走型支援」を実施し、アピールポイントの洗い出しと絞り込み、活動への共感をどう促すかを個別にアドバイスし、団体自身が抱える課題と対応策をともに考え、3～5年を見越した団体のあり方を団体自身が見直すことを促した。

共感寄付第2期にエントリーしている4法人も本事業に参加しており、同時に支援を実施した。

（ひょうごボランティア基金「中間支援活動助成」助成事業）

<支援実績>

参加団体： 初回講座 17 団体 34 名
個別支援 6 団体（阪神 4 団体、播磨 2 団体）

<実施体制>

相談員： 大島一晃、福井昌子
記録者： 星野修平（ボランティア）
スーパーバイザー： 実吉 威

③学び支援（講師派遣）事業

今年度も他事業を優先するため極力少なめに抑えた。

④「伝えるコツ」セミナー事業

広告のプロ（株）電通エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター）を講師に迎え、KEC、日本 NPO センター、電通の共催で「NPO のための広報スキルアップセミナー “共感” されるプレゼンのコツ」を開催した。今回は、「聞く人の立場になって考えよう」「誰に何を伝えるのか整理しよう」「自分たちの活動をひと言で言ってみよう」といったポイント、その後、効果的なプレゼンをするための考え方、コツ、話し方・ワザについての講義を受けた。その後、自分たちの活動を伝えるためのプレゼンシートを作成し、グループ発表、全体発表に臨んだ。最後に電通および日本 NPO センターの各講師からコメントがあり、終了した。（担当：福井昌子）

※ KEC、日本 NPO センター、（株）電通の共催事業

“共感”されるプレゼンのコツ～NPO のための広報スキルアップセミナー

日 時：2013 年 12 月 11 日（水）10:00～17:00

会 場：電通関西支社

講 師：西橋佐知子（(株)電通エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター）

参加者：41 名

（講座参加者の声）

- ・一緒に参加した同僚の良さがわかった。今日学んだことを、普段上司に訴えるときに使っていきたい。
- ・実際、プレゼンを作る時間があってとてもよかったです。
- ・ワークがしんどく、楽しかった。
- ・自分では研修の講師で話をするところがあるので、ある程度できると思っていました。が、ガーンでした。2分のプレゼンは難しかった。
- ・グループワークで他の人の意見を聞くことで、客観的に自分のプレゼンの改善点がわかりよかったです。
- ・プロの方の話は要点をえていてわかりやすかったです。絞る大切さと難しさを感じた。
- ・いつもよい刺激となり、活力となります。前半は同じ内容でも、講師によりメモする重点が変わっていることが様々な切り口を学びます。
- ・1 団体複数名参加の意義が少しよくわかりませんでした。
- ・またチラシ作りセミナーもやって欲しい

⑤神戸元町 NPO ポート事業

ひょうごコミュニティ財団に机、PC、事務機器等を提供している。従来の「ポート事業」としては夏に(特活)ソムニードが退室され2団体に減ったが、特に積極的な入居募集はしなかった。

(担当：古寺瑞代)

1 室	兵庫県学童保育連絡協議会・神戸市学童保育連絡会 (3F)
机 (複数)	公益財団法人ひょうごコミュニティ財団
シェアデスク	なし

⑥その他の NPO 支援事業

- ・引き続き、(特活)神戸まちづくり研究所が神戸市から受託、実施する「NPO アドバイザー派遣事業」に参加した。
- ・「ひょうご福祉ネット」の調査・政策提言活動にアドバイザーとして参加、同ネットワークとして2014年3月に「新しい総合事業実施に向けた『4つの提案、12の方策』」を刊行した。

2. NPO のための資源仲介事業

今年度は、KEC にとっても前期末（2013 年 6 月）に設立したばかりの「ひょうごコミュニティ財団」を実質的に立ち上げることに大きなエネルギーを割いた 1 年でした。7 月に公益認定を得て公益財団法人となることができましたが、実質的な部分のファンドレイズ、支援者の拡大、認知度獲得、などはまだまだ途上です。

KEC はこの新しい財団法人を人員、ネットワーク等の点で応援しました。会員はじめ多くの皆さまのご支援に厚くお礼申し上げます。これは KEC の総力を傾ける事業であり、2014 年 3 月発行の機関誌「みみずく」の表現を借りれば、「（ひょうごコミュニティ）財団の成功なくして KEC の成功ありません」（p 3）。引き続きご支援をお願いいたします。

①ひょうごコミュニティ財団支援事業（継続）

2013 年 6 月 6 日に一般財団法人ひょうごコミュニティ財団として設立（前年度）、7 月 8 日に公益財団法人となった。KEC は実吉事務局長ほか人員と拠点、ネットワークを提供し、理事・監事・評議員の皆さまを始め、多くの協力者のお力を借りてコミュニティ財団の立ち上げに尽力してきた。

次項の「共感寄付」を 2014 年 3 月までに計 2 期実施したが、これもコミュニティ財団立ち上げの一環として、重要な経験、資産を築いた事業であった。また、2009 年の法人設立時から昨年度まで KEC で受託してきた公益財団法人神戸文化支援基金（島田誠理事長；<http://kobushi-kikin.com/>）の事務局もコミュニティ財団に譲るなど、資金仲介・資金助成系事業の移譲、整理も進めた。

②「共感寄付」事業（資金循環および情報発信力向上事業）（継続）

前年度の 2012 年 10 月から第 1 期がスタートし、第 2 期は 2013 年 4 月から 2014 年 3 月まで、それぞれ 6 団体が参加し、寄付集めに取り組んだ。第 1 期参加団体の寄付募集は当初 2013 年 9 月の終了予定であったが、目標額を達成した 1 団体と目標額を達成しないまま終了することにした 1 団体を除いた 4 団体が 2014 年 3 月末まで寄付募集を続けることになった。

2014 年 3 月末までに、計 4,467,175 円（295 件）のご寄付が集まった。

第 1 期 3,050,999 円（168 件） 募集期間：2012 年 10 月～2014 年 3 月（※）

第 2 期 1,416,176 円（117 件） 募集期間：2013 年 4 月～2014 年 3 月

※ 2 団体は 2013 年 9 月まで

第 2 期参加団体を中心に、10 月頃から団体訪問を始め、それまでの寄付集めの努力や状況をヒアリングした。その後、ファンドレイズ支援事業（事業 1-②）のなかで団体支援をすることになった 3 団体を除いた、残りの 3 団体について、再度職員が訪問し、人的資源の洗い出し、寄付のお願い先の洗い出しなどを行った。どの団体もそうした洗い出し作業を行ったことがないとのことで、「自団体によるそれまでの寄付集めの取り組みを振り返るよい機会になった」「来年度以降にも生かせるようなヒントを得

られた」という声をいただくことができた。

ただ、ファンドレイズ支援が十分にできたとは言えず、今後に向けてはその手法、体制面の強化が課題として残った。(担当：福井昌子、実吉威)

＜第1期＞	*印の団体は2014年3月まで	目標額	寄付額	助成額
「まちはイキイキきらめきタイム」一緒につくりませんか？ (特活)エフエムわいわい*		500,000円	481,000円	441,689円
医療的ケアや配慮を必要とする子どもたちとの共生保育「ちっちゃなこども園にじいろ」 (特活)こどもコミュニティケア*		1,500,000円	368,000円	344,194円
“希望”に向けて-DV被害女性と子どものスタート応援活動 (特活)子どもと女性支援センター ウィメンズネット・こうべ*		1,000,000円	1,276,499円	1,167,833円
精神障がい者の「集う・語る・学ぶ」をサポート！ (特活)すまみらい		700,000円	120,000円	119,247円
障がいを持つ子どもの「のびのびしたい」と家族の「ほっとしたい」を応援したい (特活)拓人こうべ*		1,000,000円	127,000円	124,317円
「地域の居場所」で広げる人の輪づくり (特活)福祉ネットワーク西須磨だんらん		1,000,000円 (当初は500,000円)	577,000円	540,919円
事業無指定		-	91,500円	-
(計)		5,700,000円	3,050,999円	2,738,199円
＜第2期＞		目標額	寄付額	助成額
中途視覚障がい者の自信と笑顔を取り戻す応援をしよう！ (特活)ウエルネスハート		800,000円	172,000円	159,813円
「生きる」を支えるいのちの電話 (社福)神戸いのちの電話		1,000,000円	262,000円	219,082円
小さな「消費者」を応援！ 「食」「お金」「環境」の出前講座をしま～す！ (特活)C・キッズ・ネットワーク		500,000円	91,677円	90,002円
東北復興を支援する関西の若者を応援しよう！ (特活)生涯学習サポート兵庫		1,000,000円	227,000円	191,820円
小児科病棟の子どもたちに笑顔をプレゼント！ (特活)兵庫県子ども文化振興協会		1,500,000円	151,000円	131,780円
子育てを応援する人を育てるプロジェクト (特活)保育ネットワーク・ミルク		500,000円	392,499円	342,172円
事業無指定		-	120,000円	-
(計)		5,300,000円	1,416,176円	1,134,669円

※新年度に入った5月10日に、全12団体のご協力を得て報告会を開催した。

③住友ゴム CSR 基金、ボランティア情報提供事業

1) 2013 年度 CSR 基金助成事業

本事業は住友ゴム工業株式会社の CSR 事業の一環として、マッチングギフト方式で積み立てられた基金から拠出し、環境保全、災害支援、交通安全、地域課題の解決に取り組む団体を対象に助成するものである。助成先は、KEC が推薦した団体を同社内部で選考し、助成先が決まる。本助成は使途に制限がほとんどないため、団体にとっては活用しやすいと好評である。

2013 年度は、東播磨地域で(特活)シミズシーズ、阪神北地域で(認定特活)宝塚 NPO センターのご協力を得て、神戸地域と合わせて計 8 団体を推薦し、全団体が採択された。(担当：福井昌子、大島一晃)

採択団体一覧

助成団体	助成金額	備考
(特活)メリーポピンズの会 (宝塚市)	25 万円	継続
こうべ子どもにこにこ会 (神戸市)	20 万円	継続
WS ひょうご (神戸市)	25 万円	継続
うおずみん・ふるさと創生プロジェクト (明石市)	30 万円	
明石のはらくらぶ (明石市)	25 万円	
(特活)長尾すぎの子クラブ (宝塚市)	30 万円	
ぷらっとホーム (西宮市)	30 万円	
(特活)ウィズアス (神戸市)	30 万円	

2) ボランティア情報提供事業

住友ゴム工業 (神戸本社) は毎月 5 日・6 日 (ゴムの日)、同社の CSR 活動の一環として、同社社員約 1500 名が県内 NPO 活動に参加できるようなボランティア活動・イベント情報 (参加無料、低額のもの) を社内イントラネットで提供している。

KEC はこうした情報を集約し提供する業務を受託している。情報集約については、複数のメーリングリスト等により行い、毎月 2~3 件ほどを取りまとめて提供した。より魅力的な情報の収集・提供と、他方で社員の参加の促進が課題である。(担当：福井昌子)

④「サンケイリビング」紙での NPO 等の情報発信

女性のための地域生活情報紙『リビング新聞』では、ほぼ毎月、NPO 等のボランティア募集やイベント・講座 (非営利で公共性の高いもの、無料もしくは実費程度の低額) などの参加者募集の記事を掲載しており、その対象となる情報の集約を KEC が担当している。紙面スペースの都合上、掲載件数 (最大 4 件) や文字の制限 (110 字程度) があるものの、NPO からの情報提供は積極的であり、大いに活用されている。(担当：福井昌子)

⑤SAVE JAPAN 事業

株式会社損害保険ジャパンから日本 NPO センターに対する寄付を原資とする委託事業を受け、県下で環境保護活動を行う団体を支援している。2013 年度は（特活）ソーシャルデザインセンター淡路が行ったホタル鑑賞および防災と海の保全をテーマとする講演会に対して助成を行った。また、こうしたイベントの企画や当日運営も手伝った。

この 2 つのイベントによって、Save Japan プロジェクトおよび淡路島の環境のこと、市民による取り組みについて、一般市民に知っていただくよい機会となった。（担当：福井昌子、藤本高英）

「森・里・海をつなぐ水循環と生態系について考える」

（第 1 回）

ホタル鑑賞会「論鶴羽山系のホタルを見に行こう」

日 時 2013 年 6 月 8 日（土）17:30～21:30

場 所 兵庫県南あわじ市 吉備国際大学地域創成農学部および論鶴羽山系

参加者 122 名

ホタルを守る三原中学校の取り組みやホタルが生息する環境についての講義を聞いたのち、鑑賞に出かけた。夜間での鑑賞となったため、参加者の安全管理など配慮することが多かったが、参加者の満足度は非常に高かった。

（第 2 回）

学習会「東北震災の経験から学ぶ淡路島の防災と海の保全」

日 時 2013 年 10 月 27 日（日）9:30～12:30

場 所 兵庫県南あわじ市 吉備国際大学地域創成農学部

内 容

発題 1：「瀬戸内の水環境保全の課題」 須藤隆一先生（東北大学大学院客員教授）

発題 2：「東日本大震災復興活動への取り組み」 千葉信男先生（NPO 法人環境生態工学研究所理事）

パネルディスカッション：「これからの淡路島の生態系保全のあり方」

パネリスト：須藤隆一先生

野田富士樹氏（淡路地学の会代表）

内藤正明先生（吉備国際大学地域創成農学部教授）

コーディネーター：伊藤真之先生（神戸大学人間発達環境学研究科教授）

参加者 59 名

⑥その他の資源仲介事業

今年も、明治ホールディングス株式会社および同株主の社会貢献活動の一環として行われた『お菓子の寄贈プログラム』の仲介を行った（全体的なとりまとめは日本 NPO センターが担っている）。今回は、兵庫県内で障がいのある子どもたちを対象とした活動をしている団体および東日本大震災による広域避難者（県外への避難者）の支援をしている団体が対象となった。KEC は寄贈先団体の募集を行い、応募のあった 5 団体を推薦し、すべてが寄贈を受けた。（担当：福井昌子）

3. 調査研究、政策提言事業

2013 年度は大きな制度改正はありませんでしたが、年度末になり、政府の法人税減税論議の関係で、認定 NPO 法人の税制優遇内容の見直し、縮小の可能性が出てきたため、今後は注視していく必要があります。

NPO 法人会計基準も次の改正を視野に入れ、前年度に続いて兵庫県内の会計基準普及度実態調査を県内の団体で連携して実施しました。

認定 NPO 法人制度は運用 2 年目となり、認定 NPO 法人相談事業（事業 1-①）とも相まって、所轄庁とよりよい制度運用への意見交換を重ねています。

①NPO セクターの基盤整備にかかわるネットワーク事業への参加

1) 県議会との意見交換会

ひょうご市民活動協議会主催の意見交換会「議会との協働」に参加。自民党県議団に対し、兵庫県内の NPO セクターの活動紹介を行うとともに、より良い地域づくりに向けて NPO と議会とが今後どのように協働して取り組めるか、意見交換を行った。（担当：実吉威）

日時： 2014 年 3 月 20 日（木）17:00～18:30

会場： 兵庫県議会特別委員会室

参加： 議員 21 人、NPO21 人、行政 5 人

2) 「手引き」プロジェクト

兵庫県・神戸市「NPO 法人設立・運営の手引」作成プロジェクトチーム（事務局：NPO 法人シミンズシーズ）に参加。3 年目を迎えた 2013 年度は、NPO 法人向けの「認定 NPO 取得啓発パンフレット作成」を行った（担当：実吉威）。

3) NPO 法人会計基準協議会

前年度に続き幹事世話団体として参加。

年末には、全国調査の一環として、兵庫県内の全 NPO 法人の会計基準普及度調査を実施した。これにあたっては、県内の中間支援組織と所轄庁、計 23 団体の大きなネットワークのご協力で実施し、結果は会計基準協議会として「NPO 法人会計基準白書 2013」としてまとめた。（担当：実吉威）

②機関誌「みみずく」発行事業

機関誌「みみずく」を 1 号、発行した。

◇第 32 号：2014 年 3 月 20 日、12 ページ、4,500 部発行

（編集長：諏訪晃一理事、事務局担当：福井昌子）

③役員就任・審議会・研究会・ネットワーク等

団体（KEC）、個人（中田、実吉、藤本）として以下の団体、ネットワークの役員・会員、および審議会等のメンバーとなった。

(団体)

- ・ひょうご市民活動協議会（会員）
- ・シーズ・市民活動を支える制度をつくる会（会員）
- ・日本 NPO センター（会員）
- ・社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（NN ネット）（会員）
- ・市民ファンド推進連絡会（世話団体）
- ・NPO 法人会計基準協議会（幹事世話団体）

(個人)

- ・ひょうご市民活動協議会 運営委員（実吉）
- ・神戸市・すまい審議会 委員（実吉）
- ・神戸市・中間支援 NPO と行政の意見交換会 メンバー（実吉）
- ・(特活)市民社会創造ファンド 運営委員（理事）（実吉）
- ・住友商事「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム」選考委員長（実吉）
- ・NPO 広報力向上委員会 委員（実吉）

4. 東日本被災地支援事業

引き続き福島県を重点支援先として、東日本大震災の支援活動を行いました。福島県の NPO に対する支援、福島と兵庫を結ぶプロジェクトの準備、それに兵庫県に避難されている方を支援する活動のネットワーク「避難サポートひょうご」に引き続き取り組みました。

①「避難サポートひょうご」～避難者支援団体のネットワークづくり

福島県を中心として、東日本大震災による広域避難者が兵庫県に避難してきておられ、その数は公的に把握されているだけでも 1000 名近くにおよぶ。その支援に携わる団体の横連携のためのネットワークを前年度から立ち上げ、引き続き活動した。

当年度は兵庫県社会福祉協議会が大きな牽引役になり、各種専門家団体、コープ、YMCA 等といった約 30 の支援団体で、定期的に集会を持つとともに、避難者への聞き取り調査を行い、3 月に「東日本大震災・原発事故による兵庫県内避難者の声」としてまとめた。

KEC はその調査実施に従事するとともに、被災地支援の寄付金を活用してこの冊子を増刷した（300 部）。（担当：藤本高英、実吉威）

②福島＝兵庫ブリッジプロジェクト

（特活）うつくしま NPO ネットワーク（UNN）と情報交換を行い、福島と兵庫・関西を結ぶプロジェクトを企画している。7 月に退職した藤本職員が代表を務める（特活）サインポスト、（特活）シミンズシーズとともに、4 団体でネットワークを形成し、兵庫から福島を応援しつつプログラムを企画中である。

（担当：実吉威）

③「選べる！福島応援寄付」事業

福島支援の一環として、共感寄付と同様のスキームで福島県内の NPO を対象に寄付募集・助成プログラムを準備した。

福島で頑張る 5 団体を選定し、全国の皆さんにここへの応援（寄付）を呼びかける。（寄付募集は新年度、6 月からスタートした）（中田理事長、諏訪理事、実吉）

Ⅲ. 組織

1. 会議

○2013 年度通常総会

日 時 2013 年 9 月 7 日 (土) 15:30~17:30

場 所 秋毎ビル 2 階会議室 (神戸市中央区元町通 6 丁目 7-9)

出席者 正会員 52 名 (うち書面表決または表決委任者 39 名) (正会員総数 71 名)

審議事項 第 1 号議案 2012 年度事業報告案承認の件 (全会一致で承認)

第 2 号議案 20112 年度決算報告案承認の件 (全会一致で承認)

第 3 号議案 定款変更の件 (全会一致で承認)

第 4 号議案 役員改選の件 (全会一致で承認)

(退任) 理事 渥美公秀 今田忠 八十庸子

(重任) 理事 雨森孝悦 磯辺 (東方) 康子 桑原英文 実吉威

諏訪晃一 中田豊一 早瀬昇 森田博一 山下淳

監事 飛田雄一 宮崎洋彰

任期: 2013 年 9 月 7 日~2015 年度通常総会終了まで

報告事項 2013 年度事業計画ならびに活動予算

○理事会

	開催日	審議事項	出席者
第 61 回	2013 年 8 月 29 日 (土) 18:00~20:30	・事業計画案、予算案承認 ・総会議案 (2012 年度事業報告案、決算案、定款変更案、役員改選案) について	理事 11 名 (うち表決委任 5 名)、監事 1 名
第 62 回	2013 年 9 月 24 日 (木) 18:00~19:30	・正副理事長の選任 ・2013 年度事業計画、予算の変更 ・2014 年度事業計画、予算の承認 (定款変更の認証申請のため)	理事 9 名 (うち表決委任 5 名)
第 63 回	2014 年 1 月 16 日 (水) 10:00~12:00	・被災地支援助成金について	理事 9 名 (うち表決委任 2 名)
第 64 回	2014 年 3 月 17 日 (火) 18:00~20:00	・2014 年度事業計画案、予算案 ・被災地支援助成金について	理事 9 名 (うち表決委任 3 名)、監事 2 名

2. 会員

	2009 年度末	2010 年度末	2011 年度末	2012 年度末	2013 年度末実績 (前期比)
正会員	76	73	72	72 名	71 名 (▲1 名)
賛助/個人	37	25	38	4 名	16 名 (+12 名)
賛助/団体	8	6	7	0 団体	5 団体 (+5 団体)
利用/個人	5	2	5	1 名	3 名 (+2 名)
利用/団体	11	3	7	1 団体	1 団体 (±0)
購読	0	0	0	0	0
計	137	109	129	78	96 名/団体 (+18)
(下段=正会員以外)	61	36	57	6	25 名/団体 (+19)

3. 役員

2013 年 9 月 7 日の総会において、下記の役員が選任された。

同年 9 月 24 日の理事会において、正副理事長が選任された。

理事 中田豊一 (理事長)	理事 桑原英文	理事 山下淳
理事 森田博一 (副理事長)	理事 実吉威	監事 飛田雄一
理事 雨森孝悦	理事 諏訪晃一	監事 宮崎洋彰
理事 磯辺 (東方) 康子	理事 早瀬昇	

任期：2013年9月7日～2015年度通常総会終了時

4. 事務局

・事務局職員

	KEC 本体	コミュニティ財団と兼任
常勤スタッフ	藤本高英 (～2013/7)	実吉威 (事務局長) 福井昌子 (2013/8～2014/3)
非常勤スタッフ	大島一晃 (2013/4～)	山崎ゆり 古寺瑞代

・「みみずく」デザインボランティア 宮崎悦子

・事務局ボランティア 星野修平

(敬称略)